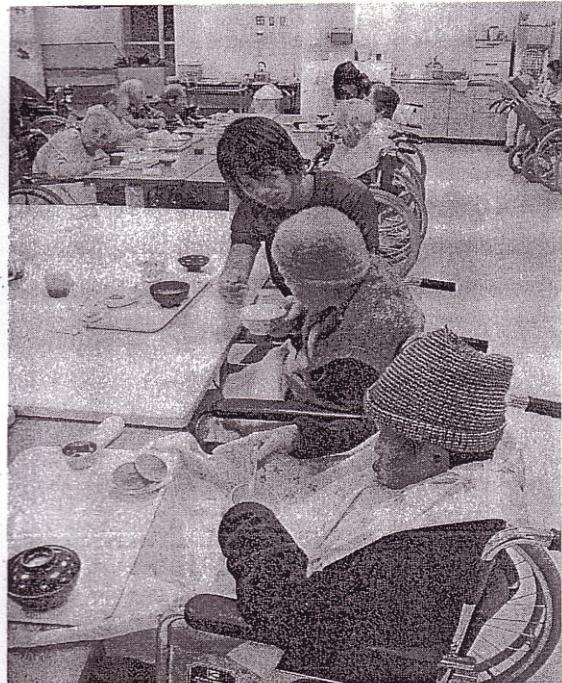
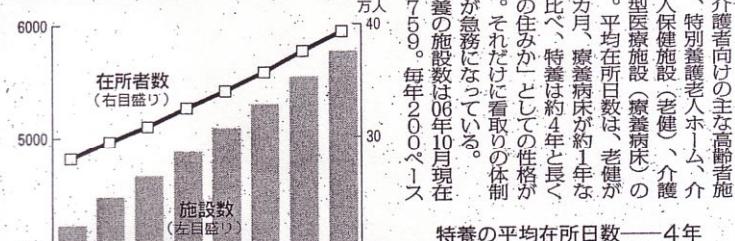


くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mbx.mainichi.co.jp

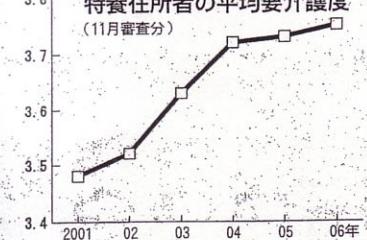


特養の施設数と在所者数(10月1日現在)



特養の平均在所日数——4年

特養在所者の平均要介護度(11月審査分)



終の住みか 色濃く

（当時99歳）は最期のときを迎えていた。老衰が進み、延命を目的としたターミナルケア（終末期医療）に移ったのがら

以前、6畳ほどの個室は息子2人と娘2人、孫3人に、施設の介護職員、医師、看護師など20人は

でいっぱいだった。

家族が手足をさりげなく呼ぶと、ハツノさんは口を動かしかけた。「お

ああ、もうちょっと頑張れ」励ます声が上がった。

でもすぐに、「もう

頑張らん」と家族みんなで打ち消しあった。

ハツノさんが樋谷荘に入ったのは00年。足を骨折して入院したところ、認知症の症状が始めた

ためだ。長男の無職、井

い寝した。静かな最期だった。保恵さんは「遠くに嫁き親不孝ばかりした

けど、最後は母と過ごせ

て幸せでした」と泣いた。

家族の思い 大切に

樋谷荘で夕食をとる老年寄り。家族の意識の変化を受け、職員らも看取りに積極的に取り組んでいる

樋谷荘はベッド数70床で、入所者の平均年齢は86歳。20年前の開設当初は

「最期は病院で、入所者の平均年齢は86歳。20年前の開設当初は

で、介護職の責任者でもある大西将彦さん（46）は、

入所者が病院で人工呼吸器につながれたり、職員との交流も少なく寂しそうにしているのを見てジ

レンマを感じていた。

「死後も、家族への配慮

を取り組み始めた。母体

設での看取りを希望する

場合の同意書を作成する。ケア計画書

を作成する。原則として、介護士、看護師、管

理士などが家族の意向を

尊重する。ただし、家族

身体状態 やりとり頻繁に

ハツノさんの長女、畠

節さん（79）は「身内で

死んでしまった

夫の死

が2回鳴るので台風に全家人が嘗ふ環境で」と望む。家族が少しずつ増えた。施設での看取りに積極的

いると、本人の表情が全然違う。最期くらいは本

て相談する。人が嘗ふ環境で」と望む。さらに状態が悪くなり

家族が減少した。主治医が終末期と判断す

ると、家族に説明し、施設での看取りに積極的

いると、本人の表情が全然違う。最期くらいは本

て相談する。人が嘗ふ環境で」と望む。さらに状態が悪くなり

家族が減少した。主治医が終末期と判断す

どこで死にますか 第3部 介護施設②

看護師の井川由美子さん（48）は「お母さんも喜んでもらえるよ」と思わず肩を抱いた。

家族の意識が変わって

の意味を確認する。食事の摂取が難しくなるなど全

身のレベルが低下した段階で、家族を呼び、タ

ミナルケアへの移行につ

立ら、涙を流して別れを

惜しみだ。クラクション

が2回鳴るので台風に全員が頭を下げ、車を見えなくなるまで、玄関から離れない

を忘れない。

亡くなったハツノさん

は職員と家族に死に化粧をほどこされた。玄関でのひつきの見送りには、厚労省は療養病床削減に伴い、原則として社会福祉法人や自治体にしか認めていない特養の設置を新たに医療法人にも認めめる方針を示しているほか、健の看取りについても推進する方向だ。

【有田道子】